

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02410

研究課題名(和文) 1980年代ソ連のグローバル・アヴァンギャルド 地方都市の前衛芸術に関する研究

研究課題名(英文) Soviet Global Avant-garde in the 1980's; Research on Avant-garde art of local cities.

研究代表者

鈴木 正美 (SUZUKI, MASAMI)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10326621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：1980年代ソ連の地方都市においてどのように前衛芸術(音楽、美術、文学)が生まれ、変化、変質、進化したのかを明らかにするため、現地調査を行った。前衛芸術に関わった人々への聞き取り調査を行い、基礎資料を収集し、それらをもとに研究を重ね、一般公開の研究会を毎年開催した。これにより1980年代ソ連の地方都市における前衛芸術について新たな知見を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：We made the field survey to clarify, how Avant-garde art (music, art, literature) was born, changed, altered and evolved in the Soviet regional cities in the 1980's. We made an interview with people involved in Avant-garde art, and collected the basic data and materials. We studied on the basis of them, held some public open conferences every year. As a result, we were able to obtain new knowledge about the Avant-garde art in the Soviet regional cities in the 1980's.

研究分野：ヨーロッパ語系文学

キーワード：外国文学 芸術諸学 比較文学 芸術史 非公式芸術 ロシア 前衛音楽 現代詩

1. 研究開始当初の背景

本研究は、基盤研究(C)「20世紀後半のロシア・中欧における非公式芸術の総合的研究」(平成18年度～20年度)を発端として、基盤研究(C)「ソ連非公式芸術とジャズ文化——創造の場とネットワーク形成に関する研究」(平成21年度～23年度)および基盤研究(C)「ソ連邦崩壊前後のアンダーグラウンド芸術の変容に関する研究」(平成24年度～26年度)をさらに発展させたものである。

先の研究で多くの資料を収集し、非公式芸術やジャズ文化に関わった多くの人々と知己を得たことで、さらに次の研究への礎を築いたことは確かである。しかし、それだけではまだ不十分であり、さらに資料の収集を必要とした。先の研究で得た人的資源を活用して、さらに1980年代ソ連の首都モスクワ以外の地方都市において前衛芸術に関わった芸術家、詩人、音楽家等に現地で会い、聞き取り調査をする必要があった。

非公式芸術に関する個別の研究やペレストロイカ期の文化や芸術に関する研究はもちろん多くあるが、本研究のように非公式芸術と公式芸術との関係、芸術諸ジャンル間の関係、ジャズ・ロック・カルチャーとの関係、人形劇との関係でロシアの前衛芸術を扱った研究はほとんどない。従って、1980年代の地方都市における前衛芸術をさらに研究する必要があった。

地方都市における前衛芸術に関しては研究資料が少なかつたため、地下出版やテープのダビング等によって残された諸資料を関係者から入手し、聞き取り調査をすべく、現地調査をさらに継続することにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ソビエト・ジャズの黄金期と呼ばれる1980年代のソ連の地方都市における前衛芸術を調査、分析することで、従来モスクワを中心に研究されてきたロシアの芸術文化を再検討し、グローバルという視点からロシアの芸術文化の特質と機能を明らかにすることにある。当該研究では、ローカルな地方都市における前衛芸術でありながら現在では世界的に高く評価され、グローバルにも通じるこうした芸術・文化をグローバル・アヴァンギャルドと位置づけ、ロシアの地方都市における1)非公式芸術の誕生と発達、2)ジャズ・ロック文化の進化と変容、3)人形劇の変化と人形美術の誕生、という3つのテーマを核にし、以下のように研究する。

1)フルシチョフ以降のソ連時代、公式の展覧会場はすべて文化省とソ連芸術アカデミーの管轄下にあり、また公式の美術教育は芸術家同盟のメンバーが支配していた。社会主義リアリズムという公式の芸術に迎合できない画家たちは、そのほとんどが表向きは公式の仕事につきながら、余暇の時間を使って自由な表現の作品を密かにつくっていた。

た。こうした作品はアンダーグラウンドで一般に公開されていた。展示場は主に自分のアトリエやアパートの一室で、休日に密かに公開した。公式と非公式、日常と非日常という二重の文化構造の中で、60-80年代のソ連人は芸術を享受していたのである。モスクワでは、概念や言葉だけが重視されるモスクワ・コンセプチュアリズムが1980年代の芸術の中心だったが、レングラード(現サンクト・ペテルブルク)にはコンセプチュアリズムがほとんど存在せず、その代わり非公式芸術家グループ「アレフィエフ・サークル」のようにさまざまな表現が試みられた。ロシアではないユートピア都市であるソ連の首都モスクワから見れば、レニングラードはソ連の辺境、ヨーロッパ型ロシアの地方都市であった。しかし、そのためにかえってモスクワにはない、さまざまな表現を可能にしたのである。その他の諸都市においても同様のことが起こっていて、その地方の風土、人間環境によって独自の前衛芸術が非公式に生まれ、変化していった。こうした地方都市における非公式芸術の誕生と変化について調査、分析する。

2)ソ連時代のジャズは公式の音楽として認められ、盛んに演奏されていたが、それはあくまでもコムソモールや政治権力、ソ連作曲家同盟の管轄下でのことであり、前衛的・実験的なジャズはやはりアンダーグラウンドで演奏されていた。そうした演奏の音源はペレストロイカ期になってレコード化されるようになった。亡命ロシア人のレオ・フェイギンがロンドンでレーベル「レオ・レコード」を創設し、70-80年代のソ連の前衛ジャズの音源を次々とレコードにしたが、フェイギンはこれらを総称して「ソビエト・ジャズの黄金期」と名づけた。また1980年代、ソ連圏ではジャズやロックのフェスティバルが多く開催された。モスクワやレニングラードばかりか、タリン、リガ、ヴィリニユス、アルハンゲリスク、ノヴォシビルスク、ドネーツク等の地方都市、さらに東欧諸国のフェスティバルを音楽家たちは巡り、出演した。そこで出演者同士のネットワークが生まれただけでなく、各フェスティバルの主催者間でもつながっていった。同じように、各都市の非公式芸術家たちもまた様々なネットワークを結び、相互に刺激し合った。彼らはジャズやロックの音楽によって結びついていった。こうした地方都市における音楽、音源、レコード、CDに関する資料調査と共に、現場にいた関係者への聞き取り調査を行うことで、地方都市におけるジャズ・ロック文化の進化と変容について考察する。

3)ソ連時代にはさまざまな人形劇が上演されてきた。人形劇は公式の芸術だったが、そこから派生した前衛的・実験的な人形劇も多くあった。地方都市の多くに人形劇専門の劇場があり、1980年代には各地で人形劇フェスティバルが盛んに開催された。いくつかの地方都市ではジャズ・フェスティバルと

人形劇フェスティバルがその都市の重要な文化事業と位置づけられ、音楽家や劇場関係者は行政公認のもとで、その表現をより自由なものにしていった。各地方都市のフェスティバルをさまざまな人形劇が巡業したのはジャズの音楽家と同様である。こうして人形劇関係者間でもネットワークが形成された。劇場のスタッフだった人形製作者の中から人形美術(ドール・アート)の作家として独立する者も登場した。こうした人形劇の変化と人形美術の誕生について各地方都市の人形劇場やフェスティバルを調査し、1980年代のロシアの人形劇文化の特質を明らかにする。

以上3つのテーマは密接かつ複合的に関係している。非公式芸術は、美術、文学、音楽、映画、演劇等のさまざまな芸術ジャンルの間での交流が盛んだった。前衛ジャズのグループとロック・バンドが共演するばかりか現代音楽との共演も度々あった。さらにダンスやパフォーマンス、詩の朗読などが同じステージに立つことも珍しくはなかった。また、非公式の画家たちがそうしたイベントの常連客だった。人形劇の世界では舞台外で独自の人形をつくる作家がいて、これらがまた非公式芸術の世界で用いられたりもした。

本研究では3つのテーマによる多面的アプローチによって、グローバル・アヴァンギャルドに関する資料の収集・調査をするだけでなく、この前衛芸術・文化に関わった芸術家、音楽家などに現地で聞き取り調査をし、諸資料を分析することによって、1980年代ソ連の地方都市の文化の多面的・複合的特質を解明しようと試みる。

3. 研究の方法

まず、研究代表者である鈴木正美を研究の統括者として、メンバーを下記のようなグループに分け、それぞれの領域で研究を進める。

(1)「非公式芸術の誕生と発達」研究グループ(鈴木正美、リュドミーラ・ドミートリエヴァ、ミハイル・スホーチン)

(2)「ジャズ・ロック文化の進化と変容」研究グループ(岡島豊樹、セルゲイ・レートフ、アンタナス・ギュスティス、キリル・モシュコウ、ロマン・ストリャール、アレクサンドル・ベリヤーエフ)

(1)「人形劇の変化と人形美術の誕生」研究グループ(大井弘子、吉原深和子、ナターリヤ・コストローヴァ)

(1)のグループは、1980年代のソ連の地方都市において非公式に展開した前衛芸術を扱う研究グループである。1920 - 30年代のロシア・アヴァンギャルドとその後の社会主義リアリズムはまったく対照的なもののように見られていたが、これら二つの美術様式は、フルシチョフによるスターリン批判を経て迎えた雪どけの時代に非公式の美術において融合し、リアノゾヴォ派の美術やソツ・アートを生み出した。それらはさらにコンセプチュ

アリズムへと発展していったことは今日よく知られている。しかし、非公式芸術の研究は主に美術を対象に行われており、文学、音楽、映画、演劇等のさまざまな芸術ジャンルの間での交流が盛んであった非公式芸術の全体像はいまだに不明であり、ましてや地方都市における非公式芸術に関してはほとんど研究されていない。各ジャンルは密接に関連し合い、相互に刺激を受け、あるいは融合してまったく新しい表現を生み出していった。それは旧共産圏の文化の特徴を如実に表したもののばかりである。

そこで、本研究グループはアンダーグラウンドで展開した非公式芸術の諸ジャンルを対象とし、旧ソ連圏の地方都市における非公式芸術の誕生と発達について関係資料の現地調査・収集を行い、資料の分析をする。

(2)のグループは、旧ソ連圏の地方都市におけるジャズとロックについて研究する。旧ソ連圏の諸都市(主にサンクト・ペテルブルグ、ヴィリニウス、アルハンゲリスク、ノヴォシビルスク等)で1980年代に開催されたジャズ・フェスティバルやロック・フェスティバルの主催者やジャズ・クラブ、ロック・クラブ関係者たちを現地調査し、ジャズ、ロック関係の音源資料の収集を行う。研究協力者の岡島豊樹は日本におけるソ連・東欧のジャズ・レコードの収集ではトップ・レベルであり、ロシアのジャズ批評家やレコード・コレクターとのつながりも深い。岡島は彼らへの聞き取り調査と共に、さらに音源を収集する。セルゲイ・レートフは1980年代から前衛ジャズの現場で活躍しており、非公式芸術やロシア・ジャズに関する論文も多数あり、これまでも多くの情報、資料を提供して頂いている。今後も継続して研究に協力して頂く。アンタナス・ギュスティスはヴィリニウス・ジャズ・フェスティバルの主催者であり、リトアニアのジャズ史を熟知しており、旧ソ連圏のジャズ関係者との広いネットワークを持っている。彼からもこれまで多くの情報と資料を提供して頂いており、研究協力者として今後も本研究に参加して頂く。さらに、ロシアにおける唯一のジャズ専門誌「Jazz.ru」の編集長キリル・モシュコウ、ノヴォシビルスク在住の音楽家ロマン・ストリャール、ソ連ロックに造詣の深い詩人のアレクサンドル・ベリヤーエフ(ロシア国立人文大学)の協力も得て、グループ全員の調査研究によって、旧ソ連圏の地方都市におけるジャズ・ロック文化の進化と変容について明らかにする。

(3)のグループは、人形劇と人形美術について現地調査を行う。生前のオブラスツォーフと交友のあった大井弘子(ビバボ人形劇)はオブラスツォーフ国立中央人形劇場とサンクト・ペテルブルクの人形劇フェスティバルで現地調査を行い、地方都市における人形劇の実態を明らかにする。吉原深和子(信州大学講師)はロシアの人形美術(ドール・アート)の研究を行う。オブラスツォーフ国立中央人

形劇場の人形劇博物館学芸部長ナターリヤ・コストローヴァには、大井と吉原の研究をサポートして頂く。

上記の3つの研究はどれも密接に関係しているため、個別の研究だけではなく、各研究者の積極的な協力と共同作業が必要になる。各研究者は個別の研究のための現地調査を行うが、それぞれの研究成果をもとに互いに報告しあい、各グループの共通項を検証しながら、ソ連のグローバル・アヴァンギャルドを考察するための討論を重ねるよう毎年2回の研究会を行う。

4. 研究成果

(1) 2015年度

研究会の開催

平成27年度に次の2回の研究会および講演会を行った。第1回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ」(2015年5月9日、サウンド・イメージ研究所で開催。報告者：鈴木正美、岡島豊樹、土肥理香)、第2回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ：キリル・モシコウ講演」(2016年1月9日、サウンド・イメージ研究所で開催。報告者：キリル・モシコウ、鈴木正美、岡島豊樹)、および2016年1月8日、新潟大学におけるキリル・モシコウ講演「ロシアにおけるジャズ。歴史の転機における文化の衝突」と特別授業「ロシアにおけるジャズの声」である。

海外における現地調査

鈴木正美は2016年3月19日、24日、ノヴォシビルスクにおいて研究協力者のロマン・ストリャールのコーディネートで、1970年代からノヴォシビルスクで前衛音楽・芸術を支えてきたセルゲイ・ペリチェンコに聞き取り調査を行い、多くの資料を提供された。また、ノヴォシビルスク音楽院、ノヴォシビルスク国立大学、ノヴォシビルスク現代美術館で諸関係者と面会し、有益な情報を得たばかりでなく、重要な資料を入手した。3月24日、28日には文化センター「ドム」、トレチャコフ美術館新館等で研究協力者のセルゲイ・レートフやアレクサンドル・ペリャーエフ等の協力のもと、諸関係者と面会し、多くの資料を入手することができた。

(2) 2016年度

研究会の開催

平成28年度に次の2回の研究会および講演会を行った。第1回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ」(2016年6月19日、ピブリオテカ・ムタツミンダで開催。報告者：鈴木正美、岡島豊樹)、第2回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ：セルゲイ・レートフ講演」(2017年1月29日、水道橋Ftarriで開催。報告者：セルゲイ・レートフ、鈴木正美、梅津紀雄、岡島豊樹)、

および2017年1月27日、新潟大学におけるセルゲイ・レートフ講演「ロシアの首都圏外における即興と前衛ジャズ」と特別授業「ソ連/ロシアにおける前衛ジャズ 自伝的回想」である。

海外における現地調査

鈴木正美は2016年7月31日、8月6日、ロシア・サハ共和国(ヤクーツク)でサハの民族音楽とジャズに関する調査を行った。また、2017年2月22日、3月2日、ロシアとリトアニアで現地踏査を行った。モスクワにおいて研究協力者のリュドミーラ・ドミートリエヴァのコーディネートで、音楽家ウラジーミル・マルトウイノフのフェスティバルに参加し、多くの資料を入手した。また、研究協力者のセルゲイ・レートフからも資料を提供された。ヴィリニユスでは研究協力者のアンタナス・ギュステイスの協力で打楽器奏者のウラジーミル・タラーソフに聞き取り調査を行った。ギュステイスからはリトアニアのジャズに関する貴重な資料を提供された。その他、諸関係者と面会し、多くの資料を入手することができた。

(3) 2017年度

研究会の開催

平成29年度に次の2回の研究会および講演会を行った。第1回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ」(2016年6月10日、水道橋Ftarriで開催。報告者：鈴木正美、岡島豊樹)、第2回研究会「ポスト・クリョーヒン・スタディーズ：セルゲイ・レートフ講演」(2017年12月10日、水道橋Ftarriで開催。報告者：アレクセイ・ポリーソフ、鈴木正美、岡島豊樹)、および2017年12月8日、新潟大学におけるアレクセイ・ポリーソフ講演「人と楽器：ロシアのエレクトロニクス音楽小史」、リュドミーラ・ドミートリエヴァ講演「ニコライ&リュドミーラ・ドミートリエヴァの文化・音楽活動」である。

海外における現地調査

鈴木正美は2018年2月26日、3月6日、研究協力者のリュドミーラ・ドミートリエヴァのコーディネートで、音楽家ウラジーミル・マルトウイノフのフェスティバルに参加し、多くの資料を入手した。また、研究協力者のセルゲイ・レートフ、アレクサンドル・ペリャーエフ等の研究協力者と研究打ち合わせを行い、情報交換をした。

(4) 研究成果の刊行

本研究の研究成果の一部をまとめた研究報告集「1980年代ソ連のグローバル・アヴァンギャルド 地方都市の前衛芸術に関する研究」(発行：新潟大学人文学部)を2017年6月10日に発行した。内容は以下の通りである。

a) セルゲイ・レートフ「現代ロシアおよびポ

- スト・ソビエト空間における非公式芸術とジャズ』
- b) セルゲイ・レートフ「首都圏外のロシアにおける即興とニュージャズ』
- c) キリル・モシュコウ「ロシアにおけるジャズ 歴史の転機における文化の衝突』
- d) スヴェトラナ・グヌーチコヴァ「オブラスツォーフ国立アカデミー中央人形劇場・劇人形博物館』
- e) 梅津紀雄「後期ソ連の前衛的芸術音楽にみる普遍性と個性：アルヴォ・ペルトを中心に』
- f) 岡島豊樹「アゼルバイジャンのジャズ事情 feat ムガム・ジャズ』
- g) 鈴木正美「シベリアのジャズ エディ・ロズネル』
- 研究代表の鈴木正美は研究成果として次の論文を発表した。
- a) 鈴木正美「戦時下ソ連のジャズと大衆歌謡における 声、—スターリン体制下のジャズと大衆音楽(4)』
- b) 鈴木正美「ラーゲリの中のジャズ—スターリン体制下のジャズと大衆音楽(5)』
- c) 鈴木正美「肋骨レコードのある日常——「雪どけ」期のジャズと大衆音楽』
- 研究協力者の岡島豊樹は次の小論の他に、Web サイト(ブログ)「東欧ロシアジャズの部屋」<http://jazzbrat.exblog.jp/> に多くの論考を発表している。
- a) 岡島豊樹「タラーソフの自伝的ドキュメンタリー本『トリオ』刊行記念 名場面ハイライト集」、JAZZ PERSPECTIVE vol.12、June 2016、108-109
- b) 岡島豊樹「没後 20 周年記念 追善ジャズ・クリョーヒン with Saxman」、JAZZ PERSPECTIVE vol.13、December 2016、104-105
- c) 岡島豊樹「ジャズ・ミッション to USA 物語：広義ロシア度判定付」、JAZZ PERSPECTIVE vol.15、December 2017、104-105

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

鈴木正美、肋骨レコードのある日常——「雪どけ」期のジャズと大衆音楽、人文科学研究、査読無、第142輯、2018、21-34

鈴木正美、ラーゲリの中のジャズ——スターリン体制下のジャズと大衆音楽(5)、人文科学研究、査読無、第140輯、2017、21-35

鈴木正美、戦時下ソ連のジャズと大衆歌謡における 声、—スターリン体制下のジャズと大衆音楽(4)、人文科学研究、査読無、第138輯、2016、47-64

〔図書〕(計1件)

ウラジーミル・タラーソフ『トリオ』鈴木正

美訳、法政大学出版局、2016、324頁。

〔その他〕

鈴木正美、岸本佐知子・他『「罪と罰」を読まない』(文藝春秋)の書評、すばる、2016年4月号

ホームページ等

Masami Suzuki's Web Site

<http://www2.human.niigata-u.ac.jp/~masami/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 正美 (Suzuki Masami)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10326621

(2) 研究協力者

岡島 豊樹 (Okajima Toyoki)

スラブ・東欧音楽研究

大井 弘子 (Ooi Hiroko)

ロシア人形劇研究

アンタナス・ギュスティス

(Antanas Gustys)

リトアニア・ジャズ研究

セルゲイ・レートフ (Sergey Letov)

ロシア・ジャズ研究。音楽家。

ミハイル・スホーチン

(Mikhail Sukhotin)

現代ロシア詩研究。詩人。

吉原 深和子 (Yoshiwara Miwako)

ロシア・ドール・アート研究

リュドミーラ・ドミートリエヴァ

(Liudmira Dmitrieva)

文化センター「ドム」

ロシア現代音楽研究

ナターリヤ・コストローヴァ

(Nataria Kostrova)

オブラスツォーフ国立アカデミー中央

人形劇場附属人形劇博物館

人形劇研究

アレクサンドル・ベリャーエフ

(Aleksandr Beliaev)

国立ロシア人文大学講師

ロシア・ロック研究。詩人。

ロマン・ストリヤール (Roman Stolyar)

ロシア音楽研究。音楽家。

キリル・モシュコウ (Kirill Moshkov)

ロシア音楽研究。ジャーナリスト。